

除草剤グリホサート耐性ワタの生物多様性影響評価試験
(栽培実験期間:平成20年度)

	確認項目	確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	栽培実験区画に開花前から栽培終了後まで防虫ネットを設置による交雑防止措置を行った事を確認しました。
	○選定場所について	本栽培実験では必要ありません。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について	本栽培実験では必要ありません。
	○モニタリング措置について	本栽培実験では必要ありません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	実験種子をチューブ、さらにビニール袋に入れ表示をして管理しており、混入及びこぼれ落ちを防止を行った事を確認いたしました。また、実験区画に防鳥ネットを栽培開始前(平成20年6月19日)から栽培終了後(21年2月16日)まで設置し、野鳥等の食害による拡散防止を行った事を確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	本栽培実験の実験区画がある隔離ほ場に作業専用機械を同ほ場内にて管理、また、実験区画での作業終了後は隔離ほ場内の管理棟にて、作業専用機械や長靴等の洗浄を行った事を確認しました。また、栽培終了後21年2月25日にパイプハウスを撤去。解体されたパイプハウス及び機器等を当研究所隔離ほ場組換え植物安全管理委員会委員の立会いのもと、高圧洗浄機にて洗浄を行った事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	平成20年11月14日、11月26日及び21年1月20日に種子を含むさくを収穫し、隔離ほ場組換え植物安全管理委員会委員の立会いのもと、同社結城中央研究所へこぼれ落ちないように密閉して搬出し、同所に他の作物と区分して保管している事を確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	播種後間引きした幼植物体については、裁断後ほ場内の実験区画に鋤込み不活化処理を実施している事、また、保管を必要としない植物体は、収穫後(平成20年11月26日及び平成21年2月16日)ほ場の実験区画に隣接した場所に鋤込みにより不活化処理した事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	本実験区画では、21年度に作物の栽培が実施されないので本栽培実験と同様の取扱いを行う必要がない事を確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	計画書が平成20年4月25日に公表された事を確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会が平成20年5月17日に開催された事を確認しました。また、本栽培実験についての問い合わせの対応、希望者に対し本実験への見学の受け入れを行った事を確認しました。情報提供のフォローアップについても適切に対応していた事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	平成21年3月13日現在、説明会の開催等、本実験の経過について10件の情報がホームページに掲載されている事を確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	本栽培実験での栽培及び処理の終了について、平成21年2月16日にホームページに掲載されたことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	同研究所の指導に基づきバイエルクロップサイエンス(株)にて栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備している事を確認しました。

農業環境技術研究所
隔離ほ場(バイエル社ワタ 防虫ネット)



平成20年10月3日撮影
図1

農業環境技術研究所
隔離ほ場(バイエル社ワタ ハウス内防鳥ネット)



平成20年10月3日撮影
図2